本資料のうち，枠囲みの内容は，
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所　工事計画審査資料	
資料番号	工認-129　改 4
提出年月日	平成 30 年 6 月 7 日

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所　工事計画審査資料

その他発電用原子炉の附属施設のうち

非常用発電設備 非常用発電装置

（非常用ディーゼル発電装置）

（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置）

（本文）

その他発電用原子炉の附属施設

1　非常用電源設備

1　常用電源設備との切換方法

1.1　非常用ディーゼル発電装置

a.　非常用ディーゼル発電機

1.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

1.3　常設代替高圧電源装置

a.　常設代替高圧電源装置

1.4　緊急時対策所用発電機

a.　緊急時対策所用発電機

1.5　可搬型代替低圧電源車

a.　可搬型代替低圧電源車

2.　非常用発電装置

2.1　非常用ディーゼル発電装置

(2)　内燃機関

イ　機関及び過給機

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機内燃機関

ロ　調速装置及び非常調速装置

a.　非常用ディーゼル発電機調速装置

b.　非常用ディーゼル発電機非常調速装置

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ

ニ　内燃機関に附属する空気圧縮設備

1　空気だめ

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機空気だめ

2　空気だめの安全弁

・常設

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンク

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　軽油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

(5)　発電機

イ　発電機

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機

ロ　励磁装置

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機励磁装置

ハ　保護継電装置

a.　非常用ディーゼル発電機保護継電装置

ニ　原動機との連結方法

（直結）

(6)　冷却設備

ロ　ポンプ

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ

ハ　ろ過装置

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ

ホ　主配管

・常設

2.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(2)　内燃機関

イ　機関及び過給機

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関

ロ　調速装置及び非常調速装置

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機調速装置

b.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機非常調速装置

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機冷却水ポンプ

ニ　内燃機関に附属する空気圧縮設備

1　空気だめ

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ

2　空気だめの安全弁

・常設

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンク

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　軽油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

(5)　発電機

イ　発電機

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

ロ　励磁装置

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置

ハ　保護継電装置

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機保護継電装置

ニ　原動機との連結方法

（直結）

(6)　冷却設備

ロ　ポンプ

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ

ハ　ろ過装置

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ

ホ　主配管

・常設

その他発電用原子炉の附属施設

1　非常用電源設備

1　常用電源設備との切換方法

1.1　非常用ディーゼル発電装置

非常用ディーゼル発電機

変　更　前	変　更　後
手動および自動	変更なし

1.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

変　更　前	変　更　後
手動および自動	変更なし

1.3　常設代替高圧電源装置

常設代替高圧電源装置

変　更　前	変　更　後
－	手動

1.4　緊急時対策所用発電機

緊急時対策所用発電機

変　更　前	変　更　後
－	手動および自動

1.5　可搬型代替低圧電源車

可搬型代替低圧電源車

変　更　前	変　更　後
－	手動

2　非常用発電装置に係る次の事項

2.1　非常用ディーゼル発電装置

(2)　内燃機関に係る次の事項

イ　機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

<table>
<tr><td colspan="4"></td><td>変　更　前</td><td colspan="2">変　更　後</td></tr>
<tr><td colspan="4">名　　称</td><td colspan="2">非常用ディーゼル発電機
内燃機関*1</td><td colspan="2" rowspan="9">変更なし</td></tr>
<tr><td rowspan="9">機関</td><td colspan="2">種　　類</td><td>－</td><td colspan="2">ディーゼル機関*2</td></tr>
<tr><td colspan="2">出　　力</td><td>kW/個</td><td colspan="2">5500*3，*4</td></tr>
<tr><td colspan="2">回　転　速　度*5</td><td>min^{-1}*6</td><td colspan="2">429</td></tr>
<tr><td rowspan="2">燃料</td><td>種　　類</td><td>－</td><td colspan="2">軽油*8</td></tr>
<tr><td>使　用　量</td><td>L/h/個</td><td colspan="2">1515*8</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　　数</td><td>－</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">取付箇所</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td>2C 非常用ディーゼル発電機内燃機関
2C 非常用ディーゼル発電装置*8</td><td>2D 非常用ディーゼル発電機内燃機関
2D 非常用ディーゼル発電装置*8</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>－</td><td>原子炉建屋付属棟
EL. 0. 70 m*8</td><td>原子炉建屋付属棟
EL. 0. 70 m*8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">過給機</td><td colspan="2">種　　類</td><td>－</td><td colspan="2">排気タービン式</td><td colspan="2" rowspan="5">変更なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">出　口　の　圧　力</td><td>kPa</td><td colspan="2">123*3（最大連続回転時）</td></tr>
<tr><td colspan="2">回　転　速　度*5</td><td>min^{-1}*6</td><td colspan="2">16250（最大連続回転数）</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　　数</td><td>－</td><td colspan="2">4（機関 1 台当たり 2）*7</td></tr>
<tr><td colspan="2">取　付　箇　所</td><td>－</td><td colspan="2">機関と同じ*8</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>CS-B1-5</td><td>CS-B1-3</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>EL. 0. 80 m 以上</td><td>EL. 0. 80 m 以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 サイクル竪形[redacted]ディーゼル機関」と記載。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：ディーゼル機関の出力を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r.p.m」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4（各 2)」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ロ　調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変　更　前		変　更　後
名　　称		非常用ディーゼル発電機調速装置	非常用ディーゼル発電機非常調速装置	変更なし
種　　類	－	油圧式	電気－空気式	

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

<table>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">変　更　前</td><td colspan="2">変　更　後</td></tr>
<tr><td colspan="3">名　　称</td><td colspan="2">非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ*1</td><td colspan="2" rowspan="8">変更なし</td></tr>
<tr><td rowspan="7">ポンプ</td><td colspan="2">種　　類</td><td>－</td><td colspan="2">うず巻形*2</td></tr>
<tr><td colspan="2">容　　量</td><td>m³/h/個</td><td colspan="2">[redacted]</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　　数</td><td>－</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">取付箇所</td><td>系統名（ライン名）</td><td>－</td><td>2C 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ
2C 非常用ディーゼル発電装置*4</td><td>2D 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ
2D 非常用ディーゼル発電装置*4</td></tr>
<tr><td>設置床</td><td>－</td><td colspan="2">原子炉建屋付属棟
EL.0.70 m*4</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>CS-B1-5</td><td>CS-B1-3</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td colspan="2">EL.0.80 m 以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

＊3：公称値を示す。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ニ　内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1　空気だめの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前				変　更　後
名称			非常用ディーゼル発電機空気だめA		非常用ディーゼル発電機空気だめB*1		変更なし
種類		－	横置円筒形*2				
容量		m³/個*3	3以上*5（3*4，*6）				
最高使用圧力		MPa	3.24*7				
最高使用温度		℃	60*8				
主要寸法	胴内径	mm	1200*6，*8				
	胴板厚さ*9	mm	[redacted]（22*6）				
	鏡板厚さ	mm	[redacted]（22*6）				
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*6，*8（内面における長径）				
			300*6，*8（内面における短径の2分の1）				
	マンホール外径	mm	424*6，*10，*11，324*6，*10，*12				
	マンホール厚さ	mm	[redacted]（22*6，*8）				
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted]（36*6，*8）				
	全長	mm	2904*6，*10				
材料	胴板	－	SM50B				
	鏡板	－	SM50B*8				
	マンホール平板	－	SM50B*8				
個数		－	2*13		2*13		
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	2C非常用ディーゼル発電機空気だめA 2C非常用ディーゼル発電装置*5	2D非常用ディーゼル発電機空気だめA 2D非常用ディーゼル発電装置*5	2C非常用ディーゼル発電機空気だめB 2C非常用ディーゼル発電装置*5	2D非常用ディーゼル発電機空気だめB 2D非常用ディーゼル発電装置*5	
	設置床	－	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*5				
	溢水防護上の区画番号	－	－				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－					

注記　＊1：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横形定置式」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ℓ」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：公称値を示す。

＊7：ＳＩ単位に換算したもの。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-17　内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付図面「第 10-3 図　空気だめ本体図（１／２）（非常用ディーゼル発電装置用）」による。

＊11：マンホール管台外径における長径を示す。

＊12：マンホール管台外径における短径を示す。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4（各 2）」と記載。

NT2 補 ① Ⅱ R2

2　空気だめの安全弁の名称，種類，吹出圧力，吹出量，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前				変　更　後
名称			3-14Z1*1	3-14Z2*1，*2	3-14Z101*1	3-14Z102*1，*2	変更なし
種類		－	非平衡型*3				
吹出圧力		MPa	3.24*4，*5				
吹出量		kg/h	[redacted]				
主要寸法	呼び径	－	20 A				
	リフト	mm	[redacted]				
	のど部の径	mm					
	弁座口の径	mm					
材料	弁箱	－	SF440A*7				
個数		－	1*8	1*8	1*8	1*8	
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	3-14Z1 2D非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z2 2D非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z101 2C非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z102 2C非常用ディーゼル発電装置*7	
	設置床	－	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	
	溢水防護上の区画番号	－	－				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－					

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

＊2：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-18　内燃機関に附属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

＊5：ＳＩ単位に換算したもの。

＊6：公称値を示す。

＊7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4（空気だめ１個につき１個）」と記載。

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前*1	変　更　後
名　称			非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク	変更なし
種　類		－	横置円筒形	
容　量		m³/個	[redacted] (14*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	55	
主要寸法	胴内径	mm	1800*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (9*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 (鏡板中央部内半径) 180*2 (鏡板隅の丸み半径)	
	管台外径（燃料入口）	mm	48.6*2	
	管台厚さ（燃料入口）	mm	[redacted] (3.7*2)	
	管台外径（燃料出口）	mm	60.5*2	
	管台厚さ（燃料出口）	mm	[redacted] (3.9*2)	
	マンホール外径	mm	518*2	
	マンホール厚さ	mm	[redacted] (9*2)	
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted] (12*2)	
	全長	mm	6210*2	
材料	胴板	－	SS41 相当	
	鏡板	－	SS41	
	マンホール平板	－	SS41 相当	
個　数		－	2	

（続き）

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">変　更　前*1</td><td colspan="2">変　更　後</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td rowspan="2">系統名
（ラインン名）</td><td rowspan="2">－</td><td>2C 非常用
ディーゼル
発電機
燃料油デイ
タンク
2C 非常用
ディーゼル
発電装置</td><td>2D 非常用
ディーゼル
発電機
燃料油デイ
タンク
2D 非常用
ディーゼル
発電装置</td><td colspan="2" rowspan="2">変更なし</td></tr>
<tr><td>原子炉建屋
付属棟
EL. 4.05 m</td><td>原子炉建屋
付属棟
EL. 4.65 m</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>CS-B1-8</td><td>CS-B1-6</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の
配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

その他発電用原子炉の附属施設

1　非常用電源設備

2　非常用発電装置に係る次の事項

2.1　非常用ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変更後	
名称				—	非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	
ポンプ	種類		—		スクリュー式	
	容量*1		m³/h/個		2.0 以上(2.0*2)	
	吐出圧力*1		MPa		0.195 以上（0.25*2）*3	
					0.156 以上（0.25*2）*4	
	最高使用圧力*1		MPa		1.0	
	最高使用温度*1		℃		55	
	主要寸法	吸込口径	mm		40*2	
		吐出口径	mm		32*2	
		たて	mm		220*2	
		横	mm		470*2	
		高さ	mm		230*2	
	材料	ケーシング	—		S25C	
	個数		個		2	
	取付箇所	系統名（ラインン名）	—		2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 2C 非常用ディーゼル発電機燃料油ライン	2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 2D 非常用ディーゼル発電機燃料油ライン

（続き）

				変更前	変更後
ポンプ	取付箇所	設置床	－	－	常設代替高圧電源装置置場 EL.2.0 m
		溢水防護上の区画番号	－		－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－
原動機	種類		－		誘導電動機
	出力		kW/個		1.2
	個数		個		2
	取付箇所		－		ポンプと同じ

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

＊3：2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプの記載事項を示す。

＊4：2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプの記載事項を示す。

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称			—	軽油貯蔵タンク*1，*2
種類		—		横置円筒形
容量		kL/個		378 以上（400*3）
最高使用圧力*4		MPa		静水頭
最高使用温度*4		℃		55
主要寸法	胴内径	mm		5000*3
	胴板厚さ	mm		20.8(22.0*3)
	鏡板厚さ（左右）	mm		16.5(22.0*3)
	鏡板の形状に係る寸法	mm		5000*3 (鏡板中央部内半径(左右))
				500*3 (鏡板隅の丸み半径(左右))
	行き（常設代替高圧電源装置用燃料移送ポンプ）外径	mm		48.6*3
	行き（常設代替高圧電源装置用燃料移送ポンプ）厚さ	mm		4.0(5.1*3)
	行き（2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）外径*5	mm		42.7*3
	行き（2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）厚さ*5	mm		3.8(4.9*3)
	行き(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ)外径*5	mm		42.7*3
	行き(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ)厚さ*5	mm		3.8(4.9*3)
	行き（2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）外径*6	mm		42.7*3
	行き（2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）厚さ*6	mm		3.8(4.9*3)
	全長	mm		23060*3

（続き）

			変更前	変更後	
材料	胴板	－	－	SPV490	
	鏡板	－		SPV490	
個数		個		2	
取付箇所	系統名（ラインン名）	－		軽油貯蔵タンクA燃料油移送ライン	軽油貯蔵タンクB燃料油移送ライン
	設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.2.0 m地下埋設	
	溢水防護上の区画番号	－		－	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－	

注記　＊1：軽油貯蔵タンクAは非常用電源設備のうち非常用発電装置の燃料設備（常設代替高圧電源装置）と兼用する。

＊2：軽油貯蔵タンクBは非常用電源設備のうち非常用発電装置の燃料設備（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機及び常設代替高圧電源装置）と兼用する。

＊3：公称値を示す。

＊4：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊5：軽油貯蔵タンクBの記載事項を示す。

＊6：軽油貯蔵タンクAの記載事項を示す。

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	—						非常用ディーゼル発電装置	軽油貯蔵タンク ～ 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	1.00*1	55*1	42.7	4.9*2	SUS304TP
											48.6 /42.7	5.1*2 /4.9*2	SUS304TP
											48.6	5.1*2	SUS304TP
								非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク	1.00*1	55*1	42.7	4.9*2	SUS304TP
											[redacted]	[redacted]	SUS304
											48.6 /42.7	5.1*2 /4.9*2	SUS304TP
											48.6	5.1*2	SUS304TP
								非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク*3 ～ 燃料油フィルタ	0.20*1	55*1	60.5	3.9*2	STPT38
								燃料油フィルタ*3 ～ 非常用ディーゼル発電機内燃機関	0.20*1	55*1	60.5	3.9*2	STPT38
											89.1 /60.5	5.5*2 /3.9*2	S25C
											139.8 /89.1	6.6*2 /5.5*2	S25C
											139.8	6.6*2	STPT38

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

＊3：本設備は既存の設備である。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称，種類，容量，主要寸法，力率，電圧，相，周波数，回転速度，結線法，冷却方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前	変 更 後
名称			非常用ディーゼル発電機*1	変更なし
種類		―	横軸回転界磁三相交流発電機	
容量		kVA/個*2	6500	
主要寸法	たて	mm	4955*3，*4	
	横	mm	4200*3，*4	
	高さ	mm	3240*3，*4	
力率		%*5	80*6	
電圧		V	6900	
相		―	3*7	
周波数		Hz	50	
回転速度*8		min^{-1}*9	429	
結線法		―	星形	
冷却方法*10		―	空気冷却	
個数		―	2	

（続き）

			変　更　前		変　更　後	
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	2C 非常用ディーゼル発電機*3	2D 非常用ディーゼル発電機*3	変更なし	
	設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*3	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*3		
	溢水防護上の区画番号	－	－		CS-B1-5	CS-B1-3
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			EL.0.80 m以上	EL.0.80 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KVA」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊4：公称値を示す。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.80」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r.p.m」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

ロ　励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">変　更　前</td><td colspan="2">変　更　後</td></tr>
<tr><td colspan="2">名　　称</td><td colspan="2">非常用ディーゼル発電機励磁装置*1</td><td colspan="2" rowspan="6">変更なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">種　　類</td><td>－</td><td colspan="2">静止形自励式</td></tr>
<tr><td colspan="2">容　　量</td><td>kW/個*2</td><td colspan="2">60</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　　数</td><td>－</td><td colspan="2">2（発電機1台当たり1）*3</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td>系統名（ラインン名）</td><td>－</td><td>2C 非常用ディーゼル発電機*4</td><td>2D 非常用ディーゼル発電機*4</td></tr>
<tr><td>設置床</td><td>－</td><td>原子炉建屋付属棟
EL.0.70 m*4</td><td>原子炉建屋付属棟
EL.0.70 m*4</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>CS-B1-5</td><td>CS-B1-3</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>EL.0.80 m以上</td><td>EL.0.80 m以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「励磁装置」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KW」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ハ　保護継電装置の名称及び種類

		変　更　前	変更後
名　　称		非常用ディーゼル発電機保護継電装置*1	変更なし
種　　類	－	・自動遮断用*2 発電機逆電力継電器*3，*4 発電機差電流継電器*3 発電機過電流継電器*3，*4 ・警報用*2 発電機過電圧継電器*3 発電機接地継電器*3 発電機界磁接地継電器*3 電圧不平衡継電器*3	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「保護継電装置の種類」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機過電圧」，「発電機逆電力」，「発電機差電流」，「発電機過電流」，「発電機接地」，「発電機界磁接地」，「電圧不平衡」と記載。

＊4：非常用炉心冷却設備作動信号発生時以外。

ニ　原動機との連結方法

		変　更　前	変更後
連　　結　　方　　法	－	直結*	変更なし

注記　＊：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結」と記載。

(6)　冷却設備に係る次の事項

ロ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変　更　前		変　更　後
名　称				非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ		変更なし
ポンプ	種類		－	ターボ形		
	容量		m^3/h/個	272.6 以上（272.6*1）		
	揚程		m	[redacted]		
	最高使用温度		MPa	0.70		
	最高使用温度		℃	38		
	主要寸法	吸込内径	mm	187.0*1		
		吐出内径	mm	250.0*1		
		コラム外径	mm	318.5*1		
		コラム厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）		
		高さ	mm	8743*1		
	材料	ケーシング	－	[redacted]		
	個数		－	2		
	取付箇所	系統名（ライン名）	－	2C 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ 2C 非常用ディーゼル発電装置*2	2D 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ 2D 非常用ディーゼル発電装置*2	
		設置床	－	海水ポンプ室 EL.0.80 m*2		
		溢水防護上の区画番号	－	－		
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－		

（続き）

			変　更　前	変　更　後
原動機	種　　類	－	誘導電動機	変更なし
	出　　力	kW/個	55*1	
	個　　数	－	2	
	取　付　箇　所	－	ポンプと同じ*2	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ハ　ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前		変更後
名称			非常用ディーゼル発電機用 海水ストレーナ		変更なし
種類		－	たて置円筒形*1		
容量		m³/h/個	331 以上（331*3）		
最高使用圧力		MPa	0.70*4		
最高使用温度		℃	38		
主要寸法	胴内径	mm	[redacted]		
	胴板厚さ	mm			
	カバー厚さ	mm			
	管台口径（海水入口）	mm			
	管台厚さ（海水入口）	mm			
	管台口径（海水出口）	mm			
	管台厚さ（海水出口）	mm			
	フランジ厚さ	mm			
	全長	mm			
材料	胴*2	－	SCS14		
	ボンネット*2	－	SCS14		
	カバー*2	－	SCS14		
	フランジ*2	－	SCS14		
個数		－	2		
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	2C 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ 2C 非常用ディーゼル発電装置*5	2D 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ 2D 非常用ディーゼル発電装置*5	
	設置床	－	海水ポンプ室 EL.0.80 m*5	海水ポンプ室 EL.0.80 m*5	
	溢水防護上の区画番号	－	－		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			

注記＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。
＊3：公称値を示す。
＊4：ＳＩ単位に換算したもの。
＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-2 図　非常用予備発電装置　内燃機関冷却系　ストレーナ構造図（その１）（非常用ディーゼル発電機用）」による。

ホ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	*2 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	0.70*3	38	267.4	9.3*1	STPT410*4	非常用ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし		変更なし*5		
	*2, *8, *11 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 非常用ディーゼル発電機清水冷却器	0.70*3	38	267.4	9.3*1	STPT410*4		変更なし	変更なし		変更なし*5		
				318.5*4	[redacted] (13*1, *4)	STPT410*4					変更なし		
		—							0.70*7	38*7	267.4*6 /267.4*6 /—	9.3*1, *6 /9.3*1, *6 /—	STPT410*6
		0.70*3	38	267.4	9.3*1	STPT42		変更なし			変更なし*5		
						STPT370*4		変更なし	0.70*7	38*7	267.4*6 /267.4*6 /—	9.3*1, *6 /9.3*1, *6 /—	STPT370*6
		—									267.4*6 /267.4*6 /165.2*6	9.3*1, *6 /9.3*1, *6 /7.1*1, *6	STPT370*6
											267.4*6 /165.2*6	9.3*1, *6 /7.1*1, *6	STPT370*6
		0.70*3	38	165.2	7.1*1	STPT370*4		変更なし			変更なし*5		
		—							0.70*7	38*7	165.2*6 /114.3*6	7.1*1, *6 /6.0*1, *6	STPT370*6

（次頁へ続く）

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	（前頁からの続き）	0.70*3	38	114.3	6.0*1	STPT370*4	非常用ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし		変更なし		
		0.70*3	50	114.3	6.0*1	STPT370*4			変更なし		変更なし*5		
		—							0.70*7	50*7	165.2*6 /114.3*6	7.1*1, *6 /6.0*1, *6	STPT370*6
		0.70*3	50	165.2	7.1*1	STPT370*4			変更なし		変更なし*5		
		—							0.70*7	50*7	216.3*6 /165.2*6	8.2*1, *6 /7.1*1, *6	STPT370*6
		0.70*3	50	216.3	8.2*1	STPT370*4			変更なし		変更なし*5		
		—							0.70*7	50*7	216.3*6 /216.3*6 /165.2*6	8.2*1, *6 /8.2*1, *6 /7.1*1, *6	STPT370*6
	非常用ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点*11	0.70	50	216.3	8.2*1	STPT370*4		変更なし	変更なし		変更なし*5		
		—							0.70*7	50*7	267.4*6 /216.3*6	9.3*1, *6 /8.2*1, *6	STPT370*6
											267.4*6 /267.4*6 /—	9.3*1, *6 /9.3*1, *6 /—	STPT370*6
		0.70	50	267.4	9.3*1	STPT370*4		変更なし	変更なし		変更なし*5		
						STPT410*4							
		0.70	66	267.4	9.3*1	STPT370*4		変更なし	変更なし		変更なし*5		
						STPT410*4							
				267.4	9.3*1	STPT38					変更なし		
				267.4	□(9.3*1)	STPT410							
		—							0.70*7	66*7	267.4*6 /267.4*6 /—	9.3*1, *6 /9.3*1, *6 /—	STPT410*6
											267.4*6 /— /267.4*6	9.3*1, *6 /— /9.3*1, *6	STPT410*6

（続き）

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	*2, *11 空気冷却器入口配管～燃料弁冷却器～非常用ディーゼル発電機清水冷却器出口配管		0.70	38	114.3	6.0	STPT370*4	非常用ディーゼル発電装置	—*12					
			0.70	50	114.3	6.0	STPT370*4							
	*11 放出配管分岐点～弁7-13V91, 弁7-13V89		0.70	66	267.4	[redacted] (9.3*1)	STPT410		変更なし	変更なし		変更なし*5		
	*10, *11 弁7-13V91, 弁7-13V89～放水路		0.70	66	267.4	[redacted] (9.3*1)	STPT410		変更なし					
	非常用放出配管	放出配管分岐点～放水先	0.70	66	267.4	[redacted] (9.3*1)	STPT410		変更なし	変更なし				
			—							0.70*7	66*7	267.4*6, *9	9.3*1, *6, *9	STPT410*6, *9

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ（A，B）より空気冷却器及び燃料弁冷却器まで（二重管部分を除く）」と記載。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊5：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

＊6：本設備は既存の設備である。

＊7：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナから原子炉建屋トレンチまで（非常用ディーゼル発電機および高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用とも」と記載。

＊9：エルボを示す。

＊10：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気冷却器及び燃料弁冷却器より放水路まで（放出配管）」と記載。

＊12：当該配管については，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。

2.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(2)　内燃機関に係る次の事項

イ　機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変　更　前	変更後
名　称				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 内燃機関*1	変更なし
機関	種類		－	ディーゼル機関*2	
	出力		kW/個	3050*3，*4	
	回転速度*5		min^{-1}*6	429	
	燃料	種類	－	軽油*7	
		使用量	L/h/個	880*7	
	個数		－	1	
	取付箇所	系統名（ライン名）	－	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 内燃機関 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7	
		設置床	－	原子炉建屋付属棟　EL.0.70 m*7	
		溢水防護上の区画番号	－	－	CS-B1-4
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.0.70 m 以上
過給機	種類		－	排気タービン式	変更なし
	出口の圧力		kPa	123*3（最大連続回転時）	
	回転速度*5		min^{-1}*6	16250（最大連続回転数）	
	個数		－	2	
	取付箇所		－	機関と同じ*7	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4サイクル竪形[redacted]ディーゼル機関」と記載。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：ディーゼル機関の出力を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r.p.m」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ロ　調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変　更　前		変　更　後
名　　称		高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 調速装置	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 非常調速装置	変更なし
種　　類	－	油圧式	電気－空気式	

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変　更　前	変　更　後
名　　称				高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ*1	変更なし
ポンプ	種　　類		－	うず巻形*2	
	容　　量		m^3/h/個	[redacted]	
	個　　数		－	1	
	取付箇所	系統名（ラインン名）	－	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置*4	
		設　置　床	－	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*4	
		溢水防護上の区画番号	－	－	CS-B1-4
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.0.70 m 以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

＊3：公称値を示す。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ニ　内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1　空気だめの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前		変　更　後
名称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめA	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめB*1	変更なし
種類		－	横置円筒形*2		
容量		m^3/個*3	3以上*5（3*4，*6）		
最高使用圧力		MPa	3.24*7		
最高使用温度		℃	60*8		
主要寸法	胴内径	mm	1200*6，*8		
	胴板厚さ*9	mm	[redacted]（22*6）		
	鏡板厚さ	mm	[redacted]（22*6）		
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*6，*8（内面における長径）		
			300*6，*8（内面における短径の2分の1）		
	マンホール外径	mm	424.0*6，*10，*11，324.0*6，*10，*12		
	マンホール厚さ	mm	[redacted]（22*6，*8）		
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted]（36*6，*8）		
	全長	mm	2904*6，*10		
材料	胴板	－	SM50B		
	鏡板	－	SM50B*8		
	マンホール平板	－	SM50B*8		
個数		－	1*13	1*13	
取付箇所	系統名（ラインナ名）	－	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめA 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*5	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめB 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*5	
	設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL.-4.00 m*5		
	溢水防護上の区画番号	－	－		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			

注記　＊1：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横形定置式」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ℓ」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：公称値を示す。

＊7：ＳＩ単位に換算したもの。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-17　内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付図面「第 10-6 図　空気だめ本体図（１／２）（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置用）」による。

＊11：マンホール管台外径における長径を示す。

＊12：マンホール管台外径における短径を示す。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2」と記載。

2　空気だめの安全弁の名称，種類，吹出圧力，吹出量，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前		変　更　後
名称			3-14Z201*1	3-14Z202*1，*2	変更なし
種類		－	非平衡型*3		
吹出圧力		MPa	3.24*4，*5		
吹出量		kg/h	[redacted]		
主要寸法	呼び径	－	20 A		
	リフト	mm	[redacted]		
	のど部の径	mm			
	弁座口の径	mm			
材料	弁箱	－	SF440A*7		
個数		－	1*8	1*8	
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	3-14Z201 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7	3-14Z202 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7	
	設置床	－	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付属棟　EL.-4.00 m*7	
	溢水防護上の区画番号	－	－		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

＊2：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-18　内燃機関に附属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

＊5：ＳＩ単位に換算したもの。

＊6：公称値を示す。

＊7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（空気だめ１個につき１個）」と記載。

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前*1	変　更　後
名　称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機燃料油 デイタンク	変更なし
種　類		－	横置円筒形	
容　量		m^3/個	[redacted](7.5*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	55	
主要寸法	胴内径	mm	1800*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted](9*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted](9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 （鏡板中央部内半径）	
			180*2 （鏡板隅の丸み半径）	
	管台外径（燃料入口）	mm	48.6*2	
	管台厚さ（燃料入口）	mm	[redacted](3.7*2)	
	管台外径（燃料出口）	mm	60.5*2	
	管台厚さ（燃料出口）	mm	[redacted](3.9*2)	
	マンホール外径	mm	518*2	
	マンホール厚さ	mm	[redacted](9*2)	
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted](12*2)	
	全　長	mm	3560*2	
材料	胴　板	－	SS41 相当	
	鏡　板	－	SS41	
	マンホール平板	－	SS41 相当	
個　数		－	1	

（続き）

			変　更　前*1	変　更　後
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料油デイタンク 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置	変更なし
	設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL.4.65 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	CS-B1-7
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

2.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変更後
名称				—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
ポンプ	種類		—		スクリュー式
	容量*1		m^3/h/個		2.0 以上（2.0*2）
	吐出圧力*1		MPa		0.191 以上（0.25*2）
	最高使用圧力*1		MPa		1.0
	最高使用温度*1		℃		55
	主要寸法	吸込口径	mm		40*2
		吐出口径	mm		32*2
		たて	mm		220*2
		横	mm		470*2
		高さ	mm		230*2
	材料	ケーシング	—		S25C
	個数		個		1
	取付箇所	系統名（ライン名）	—		高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油ライン
		設置床	—		常設代替高圧電源装置置場 EL.2.0 m
		溢水防護上の区画番号	—		—
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		—

（続き）

			変 更 前	変 更 後
原動機	種　　類	－	－	誘導電動機
	出　　力	kW/個		1.2
	個　　数	個		1
	取　付　箇　所	－		ポンプと同じ

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，非常用電源設備のうち燃料設備であり，非常用発電装置（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

軽油貯蔵タンク

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	—					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	軽油貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	1.00*1	55*1	42.7	4.9*2	SUS304TP
										48.6 /42.7	5.1*2 /4.9*2	SUS304TP
										48.6	5.1*2	SUS304TP
							高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク	1.00*1	55*1	42.7	4.9*2	SUS304TP
												SUS304
										48.6 /42.7	5.1*2 /4.9*2	SUS304TP
										48.6	5.1*2	SUS304TP
							高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク ～ 燃料油フィルタ *3	0.20*1	55*1	60.5	3.9*2	STPT38
							燃料油フィルタ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関 *3	0.20*1	55*1	60.5	3.9*2	STPT38
										89.1 /60.5	5.5*2 /3.9*2	S25C
										139.8 /89.1	6.6*2 /5.5*2	S25C
										139.8	6.6*2	STPT38

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

＊3：本設備は既存の設備である。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称，種類，容量，主要寸法，力率，電圧，相，周波数，回転速度，結線法，冷却方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前	変 更 後
名称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機*1	変更なし
種類		－	横軸回転界磁三相交流発電機	
容量		kVA/個*2	3500	
主要寸法	たて	mm	5065*3，*4	
	横	mm	4200*3，*4	
	高さ	mm	3240*3，*4	
力率		%*5	80*6	
電圧		V	6900	
相		－	3*7	
周波数		Hz	50	
回転速度*8		min^{-1}*9	429	
結線法		－	星形	
冷却方法*10		－	空気冷却	
個数		－	1	

（続き）

			変　更　前	変　更　後
取付箇所	系統名（ラインン名）	－	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機*3	変更なし
	設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*3	
	溢水防護上の区画番号	－	－	CS-B1-4
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.0.70 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KVA」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊4：公称値を示す。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.80」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r.p.m」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

ロ　励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

<table>
<tr><th colspan="3"></th><th>変　更　前</th><th>変　更　後</th></tr>
<tr><td colspan="2">名　　称</td><td></td><td>高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置*1</td><td rowspan="5">変更なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">種　　類</td><td>－</td><td>静止形自励式</td></tr>
<tr><td colspan="2">容　　量</td><td>kW/個*2</td><td>45</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　　数</td><td>－</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td>系統名（ラインン名）</td><td>－</td><td>高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機*3</td></tr>
<tr><td>設置床</td><td>－</td><td>原子炉建屋付属棟
EL.0.70 m*3</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td rowspan="2">－</td><td>CS-B1-4</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>EL.0.70 m以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「励磁装置」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KW」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ハ　保護継電装置の名称及び種類

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>変　更　前</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td colspan="2">名　　称</td><td>高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機
保護継電装置*1</td><td rowspan="2">変更なし</td></tr>
<tr><td>種　　類</td><td>－</td><td>・自動遮断用*2
発電機逆電力継電器*3，*4
発電機差電流継電器*3
発電機過電流継電器*3，*4

・警報用*2
発電機過電圧継電器*3
発電機接地継電器*3
発電機界磁接地継電器*3
電圧不平衡継電器*3</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「保護継電装置の種類」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機過電圧」，「発電機逆電力」，「発電機差電流」，「発電機過電流」，「発電機接地」，「発電機界磁接地」，「電圧不平衡」と記載。

＊4：非常用炉心冷却設備作動信号発生時以外。

ニ　原動機との連結方法

		変　更　前	変更後
連　　結　　方　　法	－	直結*	変更なし

注記　＊：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結」と記載。

(6) 冷却設備に係る次の事項

ロ ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変更後
名称				高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ	変更なし
ポンプ	種類		－	ターボ形	
	容量		m^3/h/個	[redacted]	
	揚程		m	43 以上（43*1）	
	最高使用圧力		MPa	0.70	
	最高使用温度		℃	38	
	主要寸法	吸込内径	mm	187.0*1	
		吐出内径	mm	250.0*1	
		コラム外径	mm	318.5*1	
		コラム厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）	
		高さ	mm	8743*1	
	材料	ケーシング	－	[redacted]	
	個数		－	1	
取付箇所	系統名（ラインン名）		－	高圧スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ 高圧スプレイ系 ディーゼル発電装置*2	
	設置床		－	海水ポンプ室 EL.0.80 m*2	
	溢水防護上の区画番号		－	－	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		－	－	

（続き）

			変　更　前	変　更　後
原動機	種　　類	－	誘導電動機	変更なし
	出　　力	kW/個	55*1	
	個　　数	－	1	
	取　付　箇　所	－	ポンプと同じ*2	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

NT2 補① Ⅱ R1

ハ　ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前	変更後
名称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	変更なし
種類		－	たて置円筒形*1	
容量		m³/h/個	386 以上（386*3）	
最高使用圧力		MPa	0.70*4	
最高使用温度		℃	38	
主要寸法	胴内径	mm	[redacted]	
	胴板厚さ	mm		
	カバー厚さ	mm		
	管台口径（海水入口）	mm		
	管台厚さ（海水入口）	mm		
	管台口径（海水出口）	mm		
	管台厚さ（海水出口）	mm		
	フランジ厚さ	mm		
	全長	mm		
材料	胴*2	－	SCS14	
	ボンネット*2	－	SCS14	
	カバー*2	－	SCS14	
	フランジ*2	－	SCS14	
個数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*5	
	設置床	－	海水ポンプ室　EL.0.80 m*5	
	溢水防護上の区画番号	－	－	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。

＊3：公称値を示す。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-3 図　非常用予備発電装置　内燃機関冷却系　ストレーナ構造図（その２）（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用）」による。

ホ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径[*1] (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径[*1] (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ[*2] ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	0.70[*4]	38	267.4	9.3[*1]	STPT410[*5]	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし		変更なし[*6]		
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ[*2, *3, *7] ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器	0.70[*4]	38	267.4	9.3[*1]	STPT410[*5]		変更なし	変更なし		変更なし[*6]		
				318.5[*5]	□[*5] (13[*1, *5])	STPT410[*5]					変更なし		
				267.4	9.3[*1]	STPT42					変更なし		
		—						変更なし	0.70[*9]	38[*9]	267.4[*8] /— /267.4[*8]	9.3[*1, *8] /— /9.3[*1, *8]	STPT410[*8]
											267.4[*8] /267.4[*8] /—	9.3[*1, *8] /9.3[*1, *8] /—	STPT410[*8]
											267.4[*8] /267.4[*8] /165.2[*8]	9.3[*1, *8] /9.3[*1, *8] /7.1[*1, *8]	STPT410[*8]
											267.4[*8] /— /165.2[*8]	9.3[*1, *8] /— /7.1[*1, *8]	STPT410[*8]
		0.70[*4]	38	165.2	7.1[*1]	STPT370[*5]		変更なし			変更なし[*6]		
						STPT38					変更なし[*6]		
	（次頁へ続く）												

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料	名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	（前頁からの続き）	—					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし	0.70*9	38*9	165.2*8 /114.3*8	7.1*1, *8 /6.0*1, *8	STPT370*8 STPT38*8
		0.70*4	38	114.3	6.0*1	STPT370*5 STPT38			変更なし				
		0.70*4	50	114.3	6.0*1	STPT370*5 STPT38			変更なし		変更なし 変更なし*6		
		—							0.70*9	50*9	165.2*8 /114.3*8	7.1*1, *8 /6.0*1, *8	STPT370*8 STPT38*8
		0.70*4	50	165.2	7.1*1	STPT370*5 STPT38			変更なし		変更なし*6 変更なし*6		
		—							0.70*9	50*9	216.3*8 /165.2*8	8.2*1, *8 /7.1*1, *8	STPT38*8
		0.70*4	50	216.3	8.2*1	STPT38 STPT370*5			変更なし		変更なし 変更なし*6		
		—							0.70*9	50*9	216.3*8 /216.3*8 /165.2*8	8.2*1, *8 /8.2*1, *8 /7.1*1, *8	STPT370*8

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	*7, *10 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	0.70*4	50	216.3	8.2*1	STPT370*5	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし		変更なし*6		
						STPT410*5					変更なし		
		—							0.70*9	50*9	267.4*8 /— /216.3*8	9.3*1, *8 /— /8.2*1, *8	STPT410*8
		0.70	50	267.4	9.3*1	STPT410*5			変更なし		変更なし*6		
		—							0.70*9	50*9	267.4*8 /267.4*8 /—	9.3*1, *8 /9.3*1, *8 /—	STPT410*8
		0.70	66	267.4	9.3*1	STPT410*5			変更なし		変更なし*6		
					□ (9.3*1)	STPT410					変更なし		
		—							0.70*9	66*9	267.4*8 /— /267.4*8	9.3*1, *8 /— /9.3*1, *8	STPT410*8
	*7 空気冷却器入口配管 ～ 燃料弁冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器出口配管	0.70*4	38	114.3	6.0	STPT410*5		—*13					
			50	114.3	6.0	STPT410*5							
	*2, *10 空気冷却器入口配管 ～ 高圧炉心スプレイポンプ室空調機，高圧炉心スプレイポンプポンプモータ軸受冷却器及びメカニカルシール冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器出口配管	0.70	38	114.3	6.0	STPT410*5		—*13					
						STPT42							
				76.3	4.8	STPT410*5							
			50	76.3	4.8	STPT410*5							
				114.3	6.0	STPT42							
						STPT410*5							

（続き）

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	放出配管分岐点*10 ～ 弁7-13V90		0.70	66	267.4	□(9.3*1)	STPT410	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし					
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	弁7-13V90*10, *12 ～ 放水路		0.70	66	267.4	□(9.3*1)	STPT410	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし					
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	発電機用の非常用放出配管	放出配管分岐点 ～ 放水先	0.70	66	267.4	□(9.3*1)	STPT410	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし				
			—							0.70*9	66*9	267.4*8, *11	9.3*1, *8, *11	STPT410*8, *11

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプより高圧炉心スプレイポンプ室空調器及び高圧炉心スプレイポンプモータ軸受冷却器，メカニカルシール冷却器まで（ポンプ吐出管）（二重管部分を除く）」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナから原子炉建屋トレンチまで（非常用ディーゼル発電機および高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用とも」と記載。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ吐出管より空気冷却器，燃料弁冷却器，潤滑油冷却器及び一次冷却水冷却器を経て前記配管まで」と記載。

＊8：本設備は既存の設備である。

＊9：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧炉心スプレイポンプ室空調器及び高圧炉心スプレイポンプモータ軸受冷却器，メカニカルシール冷却器より放水路まで（放出配管）」と記載。

＊11：エルボを示す。

＊12：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊13：当該ラインについては，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（1／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
常用電源設備との切換方法	非常用ディーゼル発電装置	－		非常用ディーゼル発電機（常用電源設備との切換方法）	－	－	－		変更なし*2	－	－	－	－
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機（常用電源設備との切換方法）	－	－	－		変更なし*2	－	－	－	－
	常設代替高圧電源装置			－					常設代替高圧電源装置（常用電源設備との切換方法）*3	－		－	－
	緊急時対策所用発電機			－					緊急時対策所用発電機（常用電源設備との切換方法）*3	－		－	－
	可搬型代替低圧電源車			－					可搬型代替低圧電源車（常用電源設備との切換方法）*3	－		－	－
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	内燃機関	機関並びに過給機	非常用ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			調速装置及び非常調速装置	非常用ディーゼル発電機調速装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				非常用ディーゼル発電機非常調速装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
			内燃機関に附属する冷却水設備	非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			内燃機関に附属する空気圧縮設備（空気だめ）	非常用ディーゼル発電機空気だめＡ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				非常用ディーゼル発電機空気だめＢ*4	C	クラス３	－		変更なし				
			内燃機関に附属する空気圧縮設備（空気だめの安全弁）	3-14Z1	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				3-14Z2*4	C	－	－		変更なし				
				3-14Z101	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				3-14Z102*4	C	－	－		変更なし				
			燃料デイタンク又はサービスタンク	非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
		燃料設備	ポンプ	－					非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			容器	－					軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（2／10）

				変　更　前					変　更　後				
設備区分	系統名	機器区分		名　　称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名　　称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1	
					耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	燃料設備	主配管	－					軽油貯蔵タンク ～ 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
				－					非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
				－					非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク ～ 燃料油フィルタ	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
				－					燃料油フィルタ ～ 非常用ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
		発電機	発電機	非常用ディーゼル発電機	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
			励磁装置	非常用ディーゼル発電機励磁装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
			保護継電装置	非常用ディーゼル発電機保護継電装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
			原動機との連結方法	非常用ディーゼル発電機 （原動機との連結方法）	－	－	－		変更なし*2	－	－	－	－
		冷却設備	ポンプ	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
			ろ過装置	非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
			主配管	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 非常用ディーゼル発電機清水冷却器	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（3／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	冷却設備	主配管	非常用ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				空気冷却器入口配管 ～ 燃料弁冷却器 ～ 非常用ディーゼル発電機清水冷却器出口配管	S	Non	－		－*5				
				放出配管分岐点 ～ 弁7-13V91，弁7-13V89	S	Non	－		変更なし				
				弁7-13V91，弁7-13V89 ～ 放水路*4	C	Non	－		変更なし				
				放出配管分岐点 ～ 放水先	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	内燃機関	機関並びに過給機	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			調速装置及び非常調速装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機調速装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機非常調速装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
			内燃機関に附属する冷却水設備	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機冷却水ポンプ	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			内燃機関に附属する空気圧縮設備 （空気だめ）	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめＡ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめＢ*4	C	クラス３	－		変更なし				
			内燃機関に附属する空気圧縮設備 （空気だめの安全弁）	3-14Z201	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				3-14Z202*4	C	－	－		変更なし				
			燃料デイタンク又はサービスタンク	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク	S	火力技術基準	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（4／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
非常用発電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	燃料設備	ポンプ	－					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
			容器	－					軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
			主配管	－					軽油貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
				－					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
				－					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク ～ 燃料油フィルタ	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
				－					燃料油フィルタ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	常設耐震／防止常設／緩和	火力技術基準
		発電機	発電機	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止常設／緩和	－
			励磁装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止常設／緩和	－
			保護継電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機保護継電装置	S	－	－		変更なし			常設耐震／防止常設／緩和	－
			原動機との連結方法	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機（原動機との連結方法）	－	－	－		変更なし*2	－	－	－	－

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（5／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
非常用発電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	冷却設備	ポンプ	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
			ろ過装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
			主配管	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器	S	クラス３	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
				空気冷却器入口配管 ～ 燃料弁冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器出口配管	S	Non	－		－*5				
				空気冷却器入口配管 ～ 高圧炉心スプレイ系ポンプ室空調機，高圧炉心スプレイポンプポンプモータ軸受冷却器及びメカニカルシール冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器出口配管	S	Non	－		－*5				

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（6／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
非常用発電装置	ディーゼル発電装置高圧炉心スプレイ系	冷却設備	主配管	放出配管分岐点 ～ 弁7-13V90	S	Non	－		変更なし				
				弁7-13V90 ～ 放水路*4	C	Non	－		変更なし				
				放出配管分岐点 ～ 放水先	S	Non	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	ＳＡクラス２
	常設代替高圧電源装置	内燃機関	機関並びに過給機	－					常設代替高圧電源装置内燃機関	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			調速装置及び非常調速装置	－					常設代替高圧電源装置調速装置	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	－
									常設代替高圧電源装置非常調速装置	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	－
			内燃機関に附属する冷却水設備	－					常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			燃料デイタンク又はサービスタンク	－					常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
		燃料設備	ポンプ	－					常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプ	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			容器	－					軽油貯蔵タンク	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
			主配管	－					軽油貯蔵タンクA ～ 常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプA	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
									常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプA ～ 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
									軽油貯蔵タンクB ～ 常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプB	－	－	常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準

表1　非常用電源設備の主要設備リスト（10／10）

設備区分	系統名	機器区分		変更前 名称	変更前 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更前 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更前 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更前 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス	変更後 名称	変更後 設計基準対象施設*1 耐震重要度分類	変更後 設計基準対象施設*1 機器クラス	変更後 重大事故等対処設備*1 設備分類	変更後 重大事故等対処設備*1 重大事故等機器クラス
非常用発電装置	窒素供給装置用電源車	燃料設備	容器	－					可搬型設備用軽油タンク	－		常設耐震／防止 常設／緩和	火力技術基準
				－					タンクローリ	－		可搬／防止 可搬／緩和	ＳＡクラス３
			主配管	－					タンクローリ給油用10mホース	－		可搬／防止 可搬／緩和	ＳＡクラス３
				－					タンクローリ送油用19.5mホース	－		可搬／防止 可搬／緩和	ＳＡクラス３
		発電機	発電機	－					窒素供給装置用電源車	－		可搬／防止 可搬／緩和	－
			励磁装置	－					窒素供給装置用電源車励磁装置	－		可搬／防止 可搬／緩和	－
			保護継電装置	－					窒素供給装置用電源車保護継電装置	－		可搬／防止 可搬／緩和	－
			原動機との連結方法	－					窒素供給装置用電源車（原動機との連結方法）*3	－		－	－
その他の電源装置	－	無停電電源装置		－					非常用無停電電源装置	Ｓ	－	常設耐震／防止 常設／緩和	－
				－					緊急用無停電電源装置	－		常設耐震／防止 常設／緩和	－
				－					可搬型整流器	－		可搬／防止 可搬／緩和	－
		電力貯蔵装置		125V系蓄電池	Ｓ	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				中性子モニタ用蓄電池	Ｓ	－	－		変更なし			常設耐震／防止 常設／緩和	－
				－					緊急用125V系蓄電池	－		常設耐震／防止 常設／緩和	－
				－					緊急時対策所用125V系蓄電池	－		常設／防止 常設／緩和	－
				－					逃がし安全弁用可搬型蓄電池	－		可搬／防止	－

注記　＊1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「５　原子炉本体の基本設計方針，適用基準及び適用規格」の「表1　原子炉本体の主要設備リスト　付表1」による。
＊2：設計基準対象施設及び重大事故等対処設備として使用する。
＊3：重大事故等対処設備として使用する。
＊4：本設備は記載の適正化のみ行うものであり，手続き対象外である。
＊5：当該配管については，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。